

大腸がんとは、その名の通り「大腸のがん」で早期では自覚症状が現れにくいのが特徴です。

初期症状は血便・便秘や下痢など排便習慣の変化・便が細くなる（狭小化）・残便感・貧血などで、患者さん自身が病気だと認識しにくい症状です。



検査方法

- 便潜血検査による大腸がん検診
便に隠れている血液を検出する検査です。大腸がんは、腫瘍が出血しやすいので、便に血液が混ざることがあります。
- 内視鏡検査
大腸の内部を直接観察することで、がんやその前段階のポリープを見つける検査です。検査では、細い管状のカメラ付きの器具を肛門から挿入し、大腸の壁を映像で確認しながら進めていきます。
検査中にポリープが見つかった場合は、その場で切除することもできます。



治療法

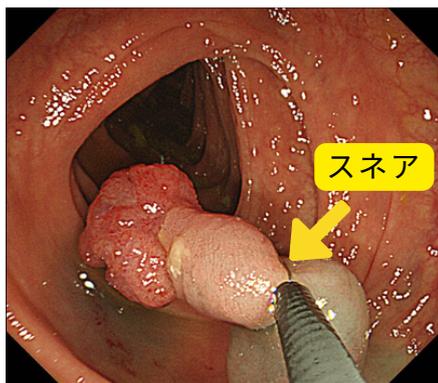
がんがどのステージにあるかによって異なります。

切除が可能な症例には内視鏡治療や外科手術が、切除困難な症例には化学療法や放射線療法が行われることが一般的です。

内視鏡手術

当院では、内視鏡的ポリープ切除術（ポリペクトミー）を行っております。

茎のあるポリープに対して、輪の形のスネアを茎の部分でしめ、高周波電流を用いて切除します。



引用：がんプラス

- ポリープががん化するリスクがあるため、予防的に取り除くことが可能。
- 小さい早期がんなら完全治癒も可能。
- 切除したポリープを病理検査して、正確に診断ができる。

※病理結果によっては、追加の治療や手術になることもあります。

ロボット支援下手術

2023年5月より、天白区で唯一導入しております。



医師が専用の操作台からロボットアームを遠隔操作して行う最先端の低侵襲手術です。お腹に小さな穴をあけてカメラや手術器具を挿入し、3Dの高精細映像を見ながら、繊細で正確な操作が可能になります。

ロボットは手ぶれを補正し、人の手よりも自由な動きができるため、細かい血管や神経の近くでも安全に手術が行えます。傷が小さいことで痛みや出血が少なく、術後の回復が早いのも大きな特長です。

